

# 女性社員の研修・交流イベント開催

ナリ  
ジ  
オ

## 業務の疑問・悩みを共有

上水道コンサルティングのオリジナル設計(東京都渋谷区、菅伸彦社長)は12月13日、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで女性社員の研修と交流を目的としたイベントを開催し、北海道から九州まで、アルバイト社員を含む全国の女性社員80人が参加した。

今回開かれた「ウーマンスタッフカンファレンス2018」(女性活躍推進研修)は、14年の第1回に続き2度目の開催となる。2日間で、グループワークと外部講師による講演、職種別の意見交換を行い、業務に関する情報を共有し、女性社員同士の親睦を深める狙いがある。

同社の女性社員は契約・アルバイトを含め全142名。全社員中の女性比率は約32%、男性社員の約半数にあたる。そのうちアルバイト社員は61人で、男性を含む全アルバイト社員の約82%を占める一方、全幹部職員のうち女性は1名にすぎている。また、職種別(社員・契約社員)では、技術職53人(男性21人)、事務職27人(男性14人)、営業職1人(男性51人)など、全職種で女性の登用が進んでいるが、技術職にあたるアルバイト社員など、その多くは補助的な業務に就いている。

今回のイベントには前回比21人増となる80人が参加した。13日の午前にダイエツや睡眠に関する2つの講演を実施。午後に業務上で生じた疑問や、女性ならではの悩みなどをアンケート調査し、職種別のグループで議論した。

「女性活躍推進の取り組み」(菅氏)に位置づけるものだが、同社として、産休・育休の取得率や幹部職員の女性比率など、女性活躍の指標となる主な数値目標はない。菅氏は、「同社にはキャリア志向の女性社員が少ない」と説明。「いろいろな事情で補助的な仕事しかできない人がいる。そして、そういう人がいないと仕事は回らない。こうした機会を通じて、日ごろから貢献してもらっていることをちゃんと見ていると伝えたい」。

同社はこれまでに全社員向けの在宅勤務制度や半日在宅勤務制度、産後3年間まで6時間勤務で給与を減額しない時短制度などを整備。個別面談を行い、各自の希望の働き方を考慮した配置転換や人事異動を行っている。女性を対象とした取り組みには「今ある社員への課題としてではなく、会社として姿勢を見せる目的」があると菅氏はいう。菅氏は自ら同イベントに参加。社員との交流を通じて、現場の意見を業務に反映する考えだ。

また、イベントの開催などには「対外的に発信する効果がある」(菅氏)。過去のイベントの開催などで、「女性の働きやすさ」に積極的に取り組んでいるイメージが行政や同業他社に波及しつつあり、こうした活動が将来の事業活動に役立つと見ている。



女性社員の研修・交流イベント開催の様子。会場には多くの女性社員が参加し、積極的に発言している様子が見られる。